



# SD8 アップグレードソフトウェア OverDrive 取扱説明書

ソフトウェアバージョン: 2.0.160+

本書は DiGiCo のデジタル・ミキシングコンソール SD8 用のアップデートソフトウェア“OverDrive”の取扱説明書です。コンソールに添付されている SD8 ユーザーマニュアルと合わせてお読みいただき、よく理解された上で正しくお使いください。また、お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保管してください。

---

## ■目次

■ 1.1	概要.....	3
■ 1.2	新たに追加された機能.....	3
● 1.2.1	内蔵エフェクター .....	3
● 1.2.2	LCRマスターバス.....	4
● 1.2.3	スナップショットスコープ、クロスフェード.....	4
● 1.2.4	カスタムバンク .....	5
● 1.2.5	ダイナミックEQ .....	6
● 1.2.6	マルチバンド・ダイナミクス.....	7
● 1.2.7	Global Set To Defaultsパネル .....	8
● 1.2.8	セキュリティー .....	8
● 1.2.8	AUXバスへのトークバック出力.....	9
● 1.2.9	音声入出力ポートの追加.....	10
● 1.2.10	セッションリポート.....	10
● 1.2.11	追加オプションメニュー.....	10
● 1.2.12	スナップショットからMMCメッセージの送出 .....	11
● 1.2.13	その他の追加機能 .....	11

## ■ 1.1 概要

本書ではアップデートソフトウェア OverDrive の Ver.2.0.160 + に追加された新機能の詳細を記載しています。コンソールに添付された SD8 ユーザーマニュアルと合わせてお読みください。

※重要 旧バージョンの SD8 ソフトウェアのセッションを読み込んでいる場合、追加されたグラフィックイコライザーや新しいエフェクターはセッションの再構築を行うまでは表示されません。チャンネルのクリアやバンクの再構築、その他の変更はリストラクチャーする際に自動で行われ、追加の情報や機能もセッションに追加されます。([Files Menu] → [Session Structure] → [Restructure] で実行)

## ■ 1.2 新たに追加された機能

### ● 1.2.1 内蔵エフェクター

内蔵エフェクターを 6 系統から 8 系統に増設しました。新しいエフェクターの一部はフラッグシップモデル SD7 のエフェクターと同等で、ディレイやリバーブなど 8 種類のエフェクターを自由に組み合わせて FX ラックを構築できます。同時に使用できるエフェクターの数は選択した組み合わせに依存し、全体のリソースによって制限されます。

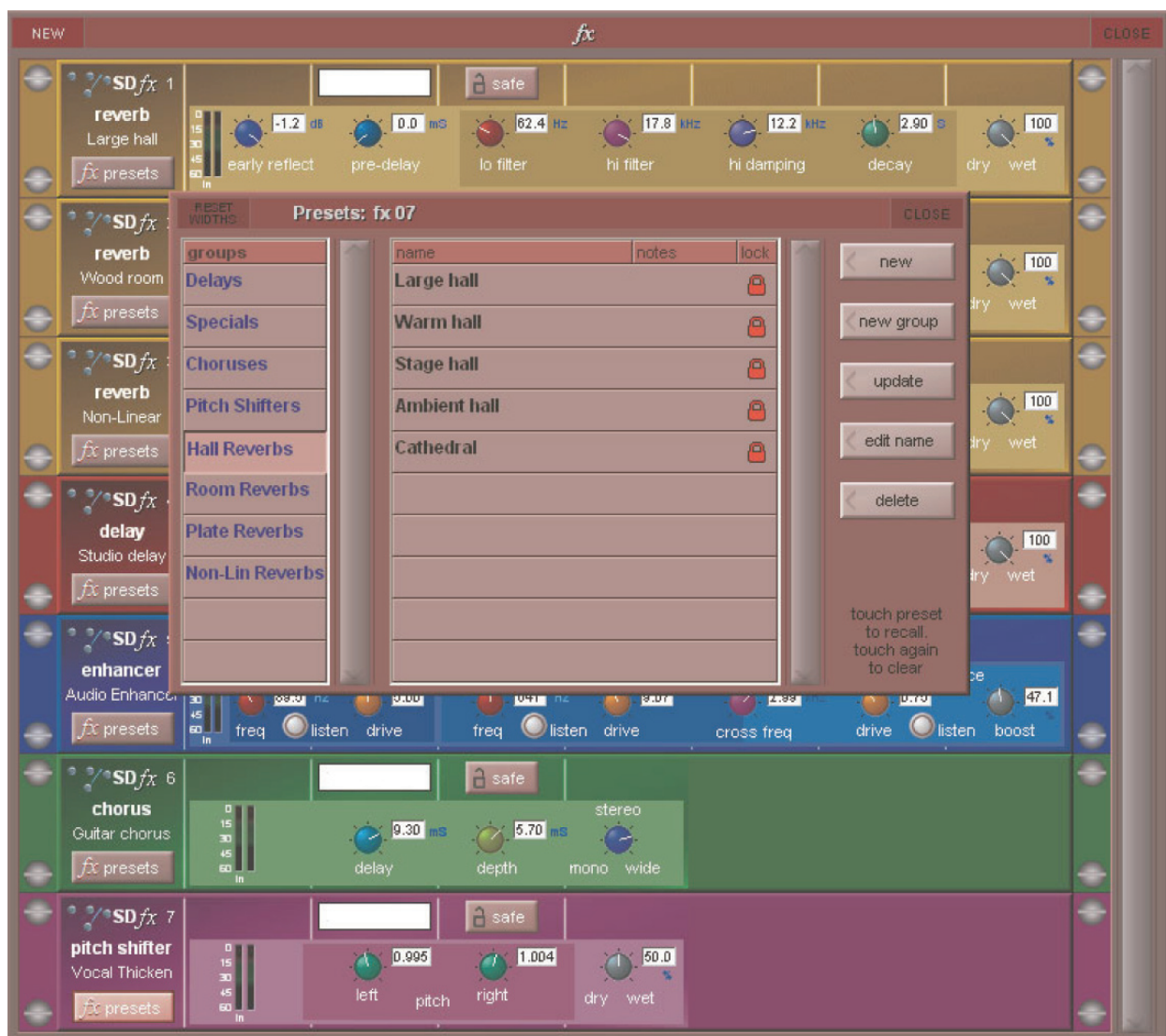
エフェクターはグループとして編成しています。FX PRESET スイッチ (エフェクターを設定済みの場合)、もしくはエフェクターパネル右上の NEW スイッチを押すことで、FX パネルを表示します。FX パネルには使用可能なエフェクターが表示され、FX プリセットパネル左側にエフェクターグループがリストとして表示されます。エフェクターグループにタッチすると、グループに含まれるエフェクターが右側に表示されます。エフェクターの名称を押すことで選択でき、変更、解除はチャンネルスクリーン上での操作と同様に行えます。

※エフェクターの最大使用数に達すると、エフェクターの名前がグレーになります。

旧バージョンのエフェクターは OverDrive では削除されており、ロードしたセッションに旧バージョンのエフェクターを使用している場合はセッションから取り除かれます。古い FX プリセットから新しい FX プリセットの変換を行う場合は古いセッションを読み込む前に全ての FX プリセットを移動する必要があります。そのため、ファイルにない現在のプリセットは通常の形では保持されません。

プリセットを選択すると、エフェクターは信号をルーティングせずに作成、表示されます。信号をエフェクターへ、またはエフェクターからルーティングする場合は入出力ルーティングパネルから行います。各チャンネルタイプの出力にある FX Output スイッチでも、エフェクターの作成、ルーティングが可能です。

※ FX ラックで作成したエフェクターは全てステレオになります。モノラル構成のエフェクターを作成する場合はチャンネル上の FX Output スイッチを使用してください。



● 1.2.2 LCR マスターバス

LCR マスターバスを含むセッションの構築、再構築が可能になりました。



セッション内に LCR バスがある場合は、自動的にマスターバスとして認識され、マスターフェーダーに LCR バスが自動的に割り当てられます。

チャンネルを LCR マスターバスにルーティングしている場合は信号のセンター定位を調整可能です。各入力チャンネルにあるブレンド調整及びパン調整の 2 次機能で調整を行います。

ブレンド調整は LCR バスのセンター部に送る信号の量を変化させます。LR に調整している（ブレンドを左に回し切り）時、センターにパン調整した信号は LCR バスの L 及び R に送られます。LCR に調整している（ブレンドを右に回し切り）時、センターにパン調整した信号は LCR バスの C にのみ送られます。LR と LCR の間に調整している場合は L/R/C レベルのレシオを変化させます。

ブレンド設定



出力の状態



● 1.2.3 スナップショットスコープ、クロスフェード

スナップショットスコープ及びクロスフェードの設定をチャンネルごとに行えるようになりました。

スナップショットパネルを開き、スコープセクションを広げることでスナップショット・リコールスコープ及びクロスフェード設定をチャンネルごとに設定できるように拡大できます。

Recall Scope: Snapshot 1.00														CLOSE	
	channel name	input/trim	delay	filters	eq	dynamics	inserts	sends	fader	mute	panner	to groups	outputs		
▼	0:Local I/O	✗													
▼	1:Rack 1	✗													
▲	Input Channels	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		
1	1: Mic 1	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		
2	1: Mic 2	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		
3	1: Mic 3	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		
4	1: Mic 4	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		
5	1: Mic 5	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		
6	1: Mic 6	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		

### ● 1.2.4 カスタムバンク

必要なフェーダーを任意で集約できるカスタムバンクを作成できるようになりました。カスタムバンクでは入力、出力、コントロールグループチャンネルを含むミックスバンクを作成可能です。

サーフェス上の LCD ファンクションスイッチでフェーダーをバンクに割り当てます。割り当ての解除もこのスイッチで行います。

- ① LCD ファンクションスイッチを押し、割り当てるフェーダーの液晶スイッチ (複数選択可能) を押してください。
- ② マスタースクリーン上のレイアウトメニューからチャンネルリストを開き、割り当てるチャンネルをタッチしてください。
- ③ 複数のフェーダーをアサインモードに設定した場合、チャンネルリスト上のチャンネルにタッチして最初に割り当てるチャンネルを選択し、連続するチャンネルはアサインモードでフェーダーに割り当てます。

※チャンネル 1 系統がサーフェス上の 1 箇所だけに存在し、その後割り当てを解除した場合、解除されたとしても音声信号のルーティングは継続します。再度割り当てが行われるまでそのチャンネルの調整は行えません。

LCD Functionスイッチを押し、  
次にフェーダーを割り当て



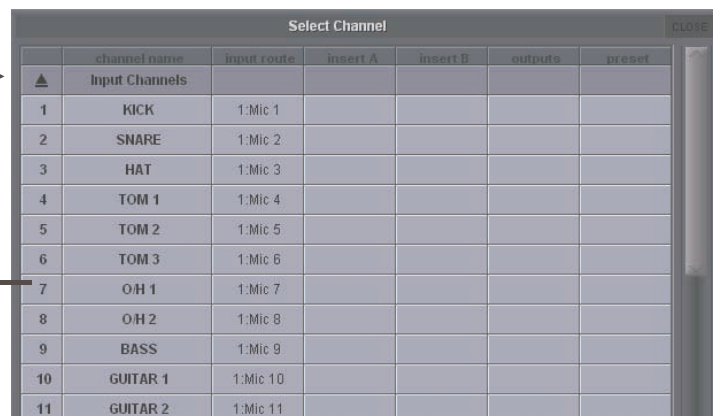
LCD スwitchを押して割り当て



Layout/Channelリストを開き、  
下向きの矢印をクリックして  
リストを広げる



チャンネルをタッチして割り当て





### ● 1.2.5 ダイナミック EQ



最大 8 チャンネルのイコライザーをダイナミック EQ として使用できます。

入出力いずれのチャンネルでも、[eq-dyn] スイッチを押すことでイコライザー設定ページからダイナミック EQ に切り替えられます。

ダイナミック EQ は 8 チャンネルまで設定可能で、8 チャンネルを超えると注意を促すメッセージがディスプレイ上に現れます。

#### ダイナミック EQ の詳細

ダイナミック EQ では、イコライザーの調整は事前に設定したスレッシュホールドに対する入力周波数のレベルを基に動的に調整されます。

ダイナミック EQ にはオーバーモードとアンダーモードの 2 つのモードを用意しています。

##### ・オーバーモード



オーバーモードにする場合は、ダイナミック EQ 設定パネルのスレッシュホールドボッド下の Over Under スイッチを OFF にしてください。

オーバーモードではダイナミック EQ セクションに入力された信号がスレッシュホールドを超えると設定したアタック、リリース、レシオの調整を行い、帯域ごとに設定したゲイン調整の動作を開始します。

- Gain:** イコライジングのゲイン調整の最大値を設定
- Frequency/Q/Curve:** 分割する帯域の周波数、Q、カーブ（ベル型、シェルビング型）を設定
- Threshold:** イコライザーが動作を開始するスレッシュホールドを設定
- Attack:** スレッシュホールドを超えた信号に対してダイナミックモジュールが動作を開始する時間を設定
- Release:** スレッシュホールドを下回った信号に対してダイナミックモジュールが動作を保持する時間を設定
- Ratio:** スレッシュホールドを超えた信号に対してダイナミック調整をどれだけ早く最大値まで達するようにするかを設定。

オーバーモードは特定の周波数帯域のみを緩やかに減衰するなど、一般的に特定の周波数のゲイン減衰に使用します。歌い手が声を大きく張り上げた時などのレベル変化を自然に制御する際に特に有効です。

## ・アンダーモード



アンダーモードにする場合は、ダイナミック EQ 設定パネルのスレッシュホールドボッド下の Over Under スイッチを ON にしてください。

アンダーモードでは、ダイナミック EQ セクションに入力された信号がスレッシュホールド以下の場合に設定したアタック、リリース、レシオの調整を行い、帯域ごとに設定したゲイン調整の動作を開始します。

信号がスレッシュホールドに近づくにつれてイコライザー動作が少なくなり、スレッシュホールドでイコライジングは OFF になります。イコライジング動作の減衰はアタック、リリース、レシオの設定で決められます。

## ● 1.2.6 マルチバンド・ダイナミクス



最大 8 系統のダイナミクス（コンプレッサー）をマルチバンドモードに切り替えることが可能です。入出力の任意のチャンネルで、ダイナミクスパネルを開き、multi-band スイッチを押すとマルチバンド・ダイナミクスに切り替わります。

8 つ以上のチャンネルにマルチバンド・ダイナミクスを割り当てようとすると注意を促すメッセージがディスプレイ上に表示されます。

マルチバンド・ダイナミクスでは各バンドで通常のコンプレッサーと同様のパラメーターを用意しています。リンク機能はコンプレッサー全体に適用されるため、バンドごとには割り当てられません。各バンドの左手側にある on スイッチを押すことでバンドごとのダイナミクスの ON、ディスプレイ右の all on スイッチを押すと全バンドを一括で ON にします。

※注意 OFF になっている帯域には音声信号が通過しません。

バンド間のクロスオーバー周波数はパネル内の紫と赤のポットを使用して調整します。各クロスオーバーは 20Hz ～ 20kHz の範囲で調整でき、クロスオーバー周波数は各ポットの下に表示されます。

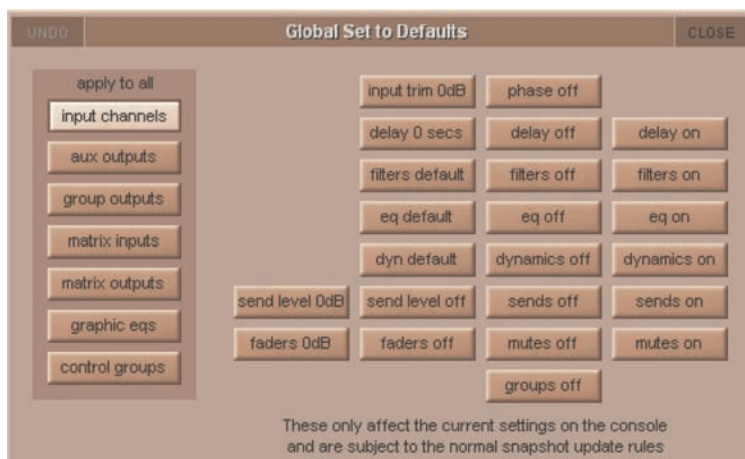
各バンドは gain ポット下の listen スイッチを押すことで検聴できます。検聴中のバンドはソロでミックスへ送られ（ソロバスではありません）、その他のバンドは一時的に OFF になります。

再度 multi-band スイッチを押すとシングルバンドコンプレッサーに切り替わります。

チャンネルストリップ上のコンプレッサースレッシュホールド及びゲイン調整は 3 つのバンドのオフセットを保持した状態で調整を行います。個別の調整はディスプレイ下のアサイン可能なロータリーエンコーダーに割り当てられます。

※リンク機能の設定を超えて、シングルとマルチバンドコンプレッサーは完全に別々の設定を持っています：設定はそれぞれに反映されず、アクティブではないコンプレッサーはパラメーター値のみが保持されています。1 つのチャンネルで同時にマルチバンドとシングルバンドダイナミクスをアクティブにはできません。

### ● 1.2.7 Global Set To Defaults パネル



Global Set to Defaults パネルではグローバル設定をコンソールに適用します。

Files メニューから Global Set to Defaults パネルを開きます。パネル左側のリストからチャンネルタイプを選択し、利用可能な機能を選択してください。この操作にはアンドゥが有効で、パネルを開いている間の全ての変更をアンドゥできます。一度 Global Set to Defaults パネルを閉じるとアンドゥできなくなるので注意してください。

### ● 1.2.8 セキュリティー

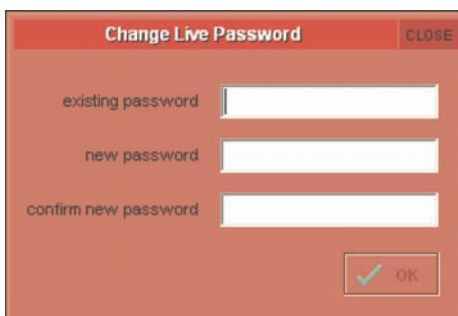
システムメニュー内にセキュリティ機能を追加しました。以下の 3 つのセキュリティモードから動作を選択できます。

- Setup:** コンソールの全ての機能にアクセスできます。
- Live:** アクセスに制限を持ち、パスワードで保護されます。
- Unattended:** コンソールがロックされ、操作できなくなります。



Live モード、Unattended モードはユーザーパスワードを設定できます。パスワードを設定するには、Set Password ボタンを押してください。古いパスワードで最初にアクセスし、新しいパスワードを new password 欄に 2 回入力してください。

※初期設定ではパスワードは設定されていません。



※パスワードを忘れないように注意してください。万が一忘れた場合は、輸入代理店にリセット用パスワードを申請する必要があります。その場合、設定済みのユーザーパスワードが全て削除され、新しいパスワードを再度設定する必要があります。



Live モードでのアクセス制限を編集する場合は set Live restriction スイッチを押してください。設定可能な機能が表示され、各機能、各チャンネルのスコープをクリックするとリストが拡張します。チェックマーク (緑) はアクセス許可、×マーク (赤) は Live モード中にロックがかかることを表しています。

Live Security Restrictions

CLOSE

	channel name	input/trim	delay	filters	eq	dynamics	inserts	sends	fader	mute	panner	to groups	outputs
▼	0:Local I/O	✓											
▼	1:Rack 1	✓											
▼	2:MADI	✓											
▼	Opto 30	✓											
▼	Opto 31	✓											
▼	Input Channels	✗	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
▼	Aux Outputs	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓			✓
▼	Group Outputs	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓		✓	✓
▼	Matrix Inputs	✓						✓					
▼	Matrix Outputs	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓			✓
▼	Graphic EQ				✓								
▼	Control Groups								✓				
▼	Talkback Input	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓			✓
▼	Talkback Output							✓					✓
▼	Solo	✓					✓		✓				✓
▼	0:Local I/O												✓
▼	1:Rack 1												✓
▼	2:MADI												✓

change Control Group members

change Snapshots

change Audio I/O devices

change Gang members

change Channel Presets

change Audio Sync

change Bank Layouts

change FX Presets or types in use

Quit to Windows

change Session Structure or overwrite files

### ● 1.2.8 AUX バスへのトークバック出力

AUX バスへのトークバック出力機能が追加されました。AUX 出力上に割り当て可能な列を用意し、個別に、もしくはトークバックパネル上に追加された [Talk to Aux Setup] ウィンドウのリストを使って Talk スイッチごとに制御できます。これは 1 系統のエンジンプロセッシングチャンネルとして使用される新しいトークバック入力を AUX 出力として使用します。このトークバック入力は新しいセッションのバンク内に表れます。古いセッションを読み込んだ場合、トークバック入力が自動的に作成されますが、バンクに割り当てられていない状態です。



AUX 出力チャンネル上で、アサインブルコントロール列横にあるアサインスイッチの 1 つを長押ししながら、スクリーン上の Talk セクションにタッチしてください。ロータリーつまみ及びスイッチの調整がトークバック出力レベルとトークバックの ON/OFF に切り替わります。

サーフェス上の Talk A/B スイッチを使用する事で、1 ユーザー、もしくは複数のユーザーが定義したチャンネル上のトークバック機能を有効にするプログラムできます。Setup/Talkback パネルを開き、a または b Talk back スイッチの上にあるラベルにタッチし、モノ / ステレオ AUX の組み合わせをスイッチで有効にしてください。

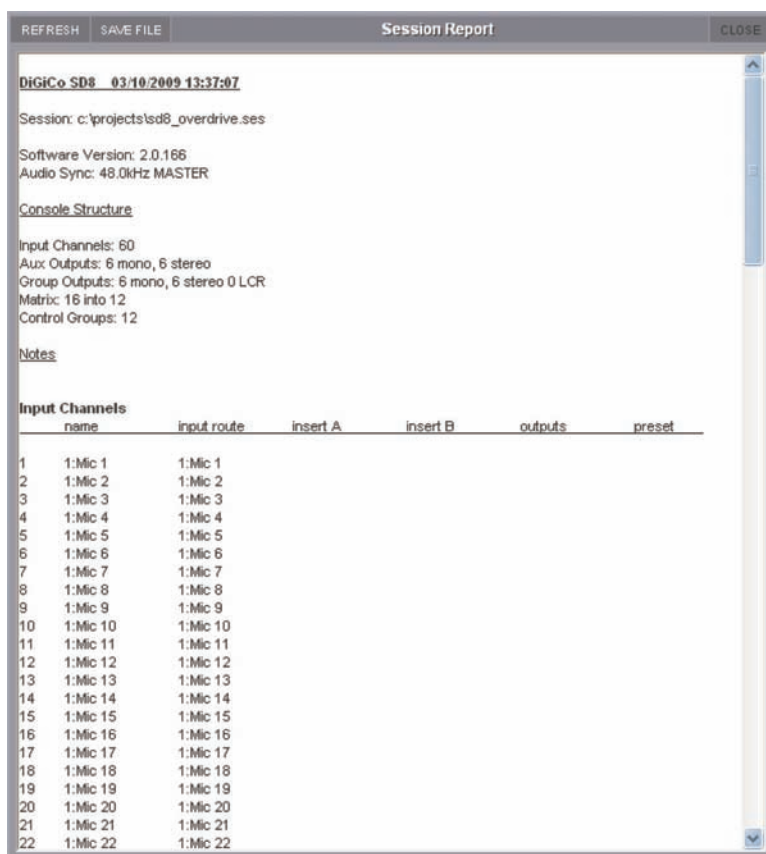
## ● 1.2.9 音声入力ポートの追加

現行の 2 系統の MADI ポートに加え、SD8 のハードウェア構成用に最大 2 つのオプトコアポートが利用可能になりました。  
さらに Audio I/O パネル上ではラック 1 ～ 4 接続の変更、および MADI/ オプトコアのラックへの割り当てが可能になりました。



## ● 1.2.10 セッションレポート

Files メニュー内に Session Report スイッチを追加しました。RTF と互換性のあるフォーマットでマスタースクリーンにセッションの詳細を表示できるようになります。このパネルの左上にある Save file スイッチを押すとレポートを .rtf 拡張子付きのセッションファイル名で保存します。



## ● 1.2.11 追加オプションメニュー

OverDrive には以下のユーザーオプションを追加しています。

### サーフェスのオプション

**Round to Whole dB's :** デシベル値の端数を最も近い整数値に切り上げ（下げ）ます。

**Auto-Cancel 2nd Function :** 設定した時間が経過後、自動的に 2nd Function をキャンセルします。1～15 秒で設定可能です。

### フェーダーのオプション

**OdB Detent :** FADER が 0 の位置の時に、電氣的にクリックをつける機能です。INPUT/OUTPUT/GEQ の全ての 0 位置、GEQ の 0 位置のみ、機能の OFF の 3 つから選択できます。

**Fader Mode :** フェーダーの動作を Free か Protected で切り替えます。Protected モードの場合、フェーダーは指で触れながらでないと動きません。

## 無効化オプション

下記のサーフェス上のスイッチを無効にできます。機能のスクリーン上での操作には影響しません。

Snapshot Previous/Next	Snapshot Auto Update	
Joystick	Hard Mute	Alt Input

## マスターのオプション

Overview Meters : 入出力のメーター表示を個別に大小で切り替えます

## セッションのオプション

Default Positions at Next Startup : YES にしている場合、次の起動時に全てのウインドウポジションがデフォルトにリセットされます。

### ● 1.2.12 スナップショットから MMC メッセージの送出

外部プレイバック機器の制御を行うため、スナップショットで MMC メッセージを送るプログラムを作成できるようになりました。

スナップショットスコープセクション内で、Transport Control スイッチを有効にしてください。Snapshot Transport Control パネルが開きます。パネルでは全ての現在のセッションスナップショットを表示し、スナップショットごとに MMC コマンドの入力が可能です。

**PLAY :** 通常の再生コマンドです。外部機器を現在の位置から再生します。

**PLAY FROM :** 設定した時間から外部機器を再生します。

**PLAY TO :** 設定した時間になると外部機器を停止します

**LOCATE TO :** 設定した時間になると外部機器の位置を知らせます。

**STOP :** 通常のストップコマンドです。外部機器を停止します。

MMC メッセージはパネル下側で設定した MIDI または 9 ピンで送られます。

※適切な MMC メッセージ送出は、コンソールの MIDI 入力に接続された外部機器からの MTC 情報を含む、正しく構成された MIDI システムに依存します。  
MTC 接続が存在しない場合、MMC スナップショットシステムは動きません。



Transport Control パネルも Layout Menu 内にあります。これは入力された MTC パラメーターを供給し、外部機器の直接操作を行います。

特定の MTC 値でスナップショットが開くプログラムも作成可能になりました。

Snapshots Recall Times パネルを開き、各スナップショット用に、Recall at 列内の MTC 値を入力します。この機能は Recall at 列右側にある Active 欄のチェックマークを設定することで、スナップショットごとに ON/OFF を切り替えられます。



### ● 1.2.13 その他の追加機能

マトリクスは 12 入力から 16 入力に、グラフィックイコライザーは 12 系統から 24 系統に拡張しました。



●この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。

●この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は、各社の登録商標または商標です。

2010 年 2 月版

**H!BINO**

ヒビノインターサウンド株式会社

〒108-0075 東京都港区港南3-5-12 TEL: 03-5783-3880 FAX: 03-5783-3881

E-mail: [info@hibino-intersound.co.jp](mailto:info@hibino-intersound.co.jp) <http://www.hibino-intersound.co.jp/>